

令和4年度 第2回 帯広市地域包括支援センター運営協議会議事概要

日 時 令和4年8月29日（月）19：00～20：10

場 所 帯広市役所 10階第2会議室

方 法 Web会議Zoomミーティング

出席者 井出委員、佐藤委員、杉野委員、鈴木委員、但木委員、鳴海委員、野尻委員（五十音順）
事務局

（地域福祉課）永田課長、宮腰課長補佐、中山課長補佐、北野主査、
稲場主任、小沢主任、鈴江主任補、黒沼主任補

（介護高齢福祉課）佐藤課長、野原主幹、高橋課長補佐

1. 開 会 （19：00～）

会議の成立について、委員8名中7名の出席があり、「帯広市地域包括支援センター運営協議会設置要綱」第6条第2項により成立していることを事務局より報告。

委員の交代について、濱委員が本日をもち退任され、それに伴い、佐藤委員が就任される。委員交代に伴う会長、副会長の選出について、選出方法は委員からの提案により指名推薦とし、委員より会長には杉野委員の推薦があり選出。副会長は会長の指名により鳴海委員が選出された。

2. 議 題

（1）帯広市地域包括支援センター運営協議会所掌分 （19：05～）

報告事項1 地域包括支援センター職員体制

資料に基づき、前回報告時より変更部分について、事務局より説明。

地域包括支援センター（以下、「センター」という）至心寮において介護福祉士1名が資格を取得し、介護支援専門員へと変更になっている。センター愛仁園において、介護支援専門員が1名増となり、センター全体の合計は45名と1名増である。

報告事項2 帯広市地域包括支援センター実績報告

今年度の4月から7月までの実績報告について、資料に沿って説明。

1 総合相談支援業務では、昨年と同時期と比較し、相談の受付件数としては微増である。（2）相談者別では、本人、家族が増え、医療機関からの相談が減少している。コロナ禍では、本人・家族からの相談が減少し、医療機関からの相談が増えていたことから、コロナ前の状況に徐々に戻りつつあることがわかる。ケアマネからの相談も増えている。3ページ（4）相談対応別としても、訪問の件数が増加している。（5）相談内容では、介護予防、虐待・権利擁護に関する相談が増加している。虐待・権利擁護の増加に関しては、同ページ2 権利擁護業務に具体的な相談を掲載している。成年後見申し立ての支援件数及び対応困難な課題をもつケースへ

の支援件数が非常に多くなっている状況。身寄りが不在、認知症などで、意思決定が困難、経済的困難など複合的な課題を抱えるケースに関する相談が増えている。1 総合相談支援業務の（6）地域ネットワークづくり支援活動については、普及啓発活動の増加が明らかであり、地域サロンや自主活動の再開に伴い、その場を活用した普及啓発事業が実施されているためである。また、その他では、今年度から障害分野における相談支援事業所が圏域毎に配置されたことで、高齢分野と障害分野で連携していくための取り組みとして、学習会等が開催されている。5 ページ 6 包括的支援事業の充実のための関連事業において（1）認知症サポーター養成講座等開催状況として、昨年と比較し、増加している要因としては、民間企業において、継続的に社員、家族を含め、複数回にわたり実施していることや、町内会、自主活動団体からの依頼による実施があること、小中学校における実施のタイミングが昨年と比較し、早い時期に開催となっていることが挙げられる。

報告事項 3 帯広市地域ケア会議実績報告（令和3年度）

地域ケア会議の概要、及び集計結果を資料に沿って説明。

地域ケア会議は、個別ケースの検討による、個別の課題の積み重ねにより、地域課題を整理し、地域づくりや資源開発、多職種のネットワークの構築等を行うことで、包括的支援事業を推進させるために開催するものである。地域ケア会議の機能は、①個別事例の課題を解決するための個別課題解決機能②個別ケースに係る多職種等の地域支援ネットワークの構築機能③個別の課題について検討することから地域の課題を見つける地域課題発見機能④個別の課題や、地域の課題を解決するための「地域づくり・資源開発」機能⑤地域課題を解決するための政策形成の5つの機能がある。センターで行う地域ケア会議の機能としては①～④が該当になる。センターが実施する地域ケア会議には、個別ケア会議とケアマネジメント支援会議があり、個別ケア会議は、利用者の個別課題を解決するための検討を行うもの、ケアマネジメント支援会議は、多職種による検討を通じ、高齢者の自立に資するケアマネジメント、つまりケアマネジャーを支援するものである。センターが行う地域ケア会議から明らかになった課題については、帯広市で行う各種ネットワーク会議や地域ケア推進会議で検討され、担当課における既存のサービスや取り組みの応用、新規サービスの取り組みの開始、事業計画に反映していく流れとなる。

令和3年度の件数は、微増となっているが、個別ケア会議の開催が減り、ケアマネジメント支援会議が増加した。個別ケア会議には、本人や家族、民生委員、近隣の方等の地域住民も参加することが多く、コロナにより中止となる会議もあったが、一方でケアマネジメント支援会議は多職種による専門職や介護支援専門員の参加が主であり、ほとんどがWebにて開催されている状況で、感染リスクを気にせず、また移動の時間を取られずに参加できるというメリットがあり、開催の増加につながったものと考えられる。2 区分別参加人数において、介護支援専門員や介護サービス事業所の参加者数が増えていることも、ケアマネジメント支援会議が増えたためと思われる。7 ページ 3 事例の属性では、前年度と大きな変化はないが、（2）世帯状況から独居が約半数を占め、（3）認知症高齢者事例件数からは、事例の40%が認知症高齢者の状況である。（5）課題の事例別課題件数においても、精神症状、支援拒否、地域からの孤立という課題が順に多くなっている。9 ページ 6 残された課題においては、地域課題につながるものになり、家族への支援や身寄りが不在であることに関連した課題や、障害サービスからの介護保険サービスが適さないなど障害分野と関連のある課題が出てきている状況である。今後は、これらの課題や地域ケア会議を行う中で明らかになった課題を分析し、帯広市が行うネットワーク会議や推進会議にて課題について検討していく。

（質疑・応答）

鳴海委員：6 ページ（4）日常生活圏域毎の会議の実施回数が地域によりばらつきがあるが、地域毎の

特性があることによるばらつきなのか、わかる範囲で教えていただきたい。

事務局：センター愛仁園は困難事例や課題のあるケースを扱う傾向のある個別ケア会議よりもケアマネジメント支援会議を開催していることが多く、地域特性によるものとははっきり言えない。センターけいせい苑の南圏域では、高齢者人口が多く、課題が抽出されやすい印象がある。

委員：センターにより、個別ケア会議、ケアマネジメント支援会議など取り組み方も異なるため、一概にはいえないところかと思われる。

委員：コロナ禍で各事業所で頑張っていると思うが、帯広市として、センター全体でよかった点、もう少し頑張してほしい点、お聞かせいただきたい。

事務局：地域ケア会議については、実績加算も含め2年前から力を入れているところであり、それに伴いセンターにおいても力を入れて取り組んでいただいているところである。地域ケア会議は、最近の傾向として、困難事例が増えてきている。具体的には、認知症の疑いのある方、引きこもっている方、障害があるかもしれない方等、本人だけではなく家族全体の関りが必要なケース、伴走的な支援も含め継続的な対応により頑張ってくれているところである。

委員：沢山の取り組みがあるが、ここがよかった、悪かったところはあるか。判断はつきにくい。

事務局：多くの事例に対応している。悪かったというよりも、日々評価をし、改善しながら対応いただいている。

委員：2報告事項の実績報告の地域ネットワーク構築のところで、相談支援事業所とのかかわりで、研修会を行っているという説明があった。センターは、障害分野や児童分野まで幅広く関わる業務もあると思うが、相談支援事業所との連携において、どのような研修をしたのか。

事務局：まずは、高齢と障害で分野が異なるため、お互いの業務や支援対象等、業務の内容を把握するところから開始し、2回目は事例検討会という形で、どのような支援や連携をできるかという内容で実施されていた。

委員：機能や役割を理解した上で、連携していくための研修会や学習会ということによろしいか。

事務局：その通りである。

(2) 地域密着型サービス運営委員会所掌分 (19:30～) ※別途議事録作成

(3) その他 (20:07)

事務局より、次回の開催日程は2月下旬を予定していることを連絡。

3. 閉会 (20:10)